

刊夕日六十月九



定価一圓五錢(税別) 零售五錢
 印刷所 常警毎日新聞社
 編集者 常警毎日新聞社
 発行所 常警毎日新聞社
 電話 六二〇
 郵便番号 〇〇〇〇

成長役の回顧

平陽 老人

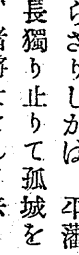
十三、平の戦

平城に於ては七月十日早朝薩州兵小名濱よりの來襲を受け、東軍之に應じて戦ふ、西軍兵を分ち左側の山道を迂回し、下三尾村の後方より七本松の背後に出でんとするを察し、七本松の守兵を分ち撤兵となして背後に備へしむ、西兵果して背後より挟撃す、東兵は前方の胸壁に據り後方は撤兵して久しく防戦すと雖も援なきを以て兵を収めて平城に歸る、西兵其の壘壁を踰えて進み來る、平城は險要の地にして守り易く攻め難し、故に容易に抜くこと能はず。更に薩州、佐土原、柳川、大村の兵を合せて來り攻む、勢甚だ鋭し、純義彰義の兩隊、仙臺、米澤、中村及び平の兵能く防ぐ、此の時に當り米澤藩の將江口鏡右衛門三中隊を率ゐて四ッ倉より來りて城兵を援く、江口が兵に三十目銃隊三十二人あり各三十目彈の銃を執り頻りに西兵を猛撃す、西兵辟易して七本松、三尾に退く。

忽ちにして濃霧となり晦暝咫尺を辨せず、寅刻(午前四時)因州、備前、柳川、佐土原の兵は南方湯長谷湯本よりし、薩州、大村の兵は分れて二となり、一は薄磯よりし、一は中作、七本松よりし、城兵城を出る一里許士俵を以て砲臺を築きて之を待ち、久保町關門及び其の他の壘壁に據る、佐土原、備前の兵、城西尼子橋より東軍を横撃し、更に才樋門に逼り、一隊は六關門を砲撃す、城兵郭内玉の門、六間門より城壘に據り皆死屍を踰え傷兵を顧みずして戦ふ、砲聲天に震ひ濃霧彼我を辨せず、一方薩州大垣兵は東方不明門より薄る、偶々疾風暴雨俄に起り

城中の諸士も亦之を賛成す上坂も決する所あり、諸士と共に涙を揮つて火を牙城に放ち城北戸張門より出づ是より先き城主安藤鶴翁は臣と共に近郊に在りしが、純義隊之を護衛し四ッ倉に去る、西軍市街村落の財寶鶏犬を掠奪し遺す所なし、婦女の掌を穿ち繩を貫きて之を牽き以て使役に供するに到り、其の慘虐暴戾概ね此の如し、此の役東西兩軍死傷多し、平城陷るの後東軍四ッ倉に向つて走り中壁村に到る、笠間の兵潜伏する者百餘人出で、路に要撃したるも純義隊、彰義隊之を撃破して過ぎ、兵を

五月の街



文藝誌「草汁」より
 させ・ひさと
 友だちと五月の街を輝られきて冷やしコーヒ黙つて飲んでゐる
 窓下を乙女行くなりくるくと廻す日傘に胸のときめき
 やがてまたかへりに遇ひし洋装の男女の連の親しかりけり
 単衣着の今朝の肌身に絹されのやうな青葉の冷えが泌みくる
 肌に泌む青葉の冷えを愛しんで木立の中ゆひとり入りけり

四ッ倉に收むるを得たり、尋いで四ッ倉は要害の地にあらざるを以て熊町まで退軍す。

申丑寅が凶【五黄】家内に喜ぬるか金が手に入るか貫ひ物あるか萬事吉事の重なるの日東西は凶【六白】金談縁談望事等は目上の信を得て益々吉となる戌亥と辰己は凶【七赤】氣運滞滯の凶日なれば謙遜以て明日を待つが吉なり【八白】金談縁談我望事等は他人の應援を得て吉となる日戌亥と辰己が凶【九紫】我望事に大利を得る事あるも人に煽動され家内に風波を起す勿れ東西凶

九月十八日丁亥七赤大安満【一白】外見良く内心に苦勞の生ずる日なれば病氣怪俄に注意すべし未申丑寅が凶【二黒】我望事は他より害を蒙る日なれば水火の難に注意すべし南北凶【三碧】營業上は吉なるも公事に心配起る事あれば水火の難に注意南北凶【四綠】我望事に奔走の念起るも先方留守で埒不明されば病氣怪俄に注意未

新 出賣節鯉

魚問屋

店理代平命生本日大最優最
 榮 盛 賀 志
 (三一二電) 目丁四平

科人婦。科外
院醫坂井
 町 田 町 平
 番 九 五 五 話 電

美味で!
 評判の……
イワキ サロン
 電 352

品質第一
 電話二六八番
平搾乳所
 平町・九品寺前

毛糸……
 今年度新色全部揃へました。
 何卒御来店下さい……
 合名 會社 **ハシモトヤ糸店**
 平・田町 電話十四番

産人科 長 木村寅次郎
 婦人科 長 木村寅次郎
外科 醫學博士 内 木宗八
 藥 局 藥劑師 玄 番彌一
 平町新川町十九
木村病院
 入院隨意 病室完備
 電話一六四番

土木事業

工事経過

出勤した延人員

平町に於ける本年度の巨款事業は既記の如く去月八日より着手して夫々の進捗を見て居るが其の工程を聞くに第一號工事の四軒町から幕の内橋に至る道路は約三分通りの出来形を示し第二號工事の字揚土地内道路は二分通り進行した、また國道の側溝工事は縣工事、請負工事、町施行工事を合せて字二丁目から着手一昨

十四日を以つて全部を完成し直ちに一丁目地内に着手し更らに田町から中町に至る排水工事は全長二百八間の内四十間の間を工事し約五分の一即ち二分通りの進行である、尙ほ今迄の出役人夫の延人員は左記の如くである

揚土地内及び四軒町地内 九六三 國道側溝八八四 排水人員六八二九

必勝を目ざして

けふ壯途へ

意氣あがる平商軍

磐中小川、川隅、平商安島、木田、磐女熊、渡邊、前田戸来の各庭球部選手は愈々明日福島市に於いて開催の縣下男女明治神宮豫選庭球大會に出場の爲め本日各係教諭に引率され平發午前九時に必勝を期し大會場目指して出發した

磐女音楽會

兩嬢特別出演

既報来る十月八日開催される磐女の音楽會には卒業生である赤井村の栗城愛子さん及び平の杉下薫さん二人が特別出演する事に決つ

先づ健康!

平第二の注意

平第二小學校では毎年秋季の變り目毎に食欲のそまる秋には色々の病氣が発生するので之が豫防の一助にも左の如く食事を攝る前には必ず手を洗ふ事にしませうと揭示教育をなし全校児童に注意を促してゐる

私等の手は非常に不潔

もので指の先には必ず微菌がついてゐます知らず／＼その手で物を食べた爲めにチブス患者や其の他色々の患者が出た例は少くありません此の様に危険な手は食事前必ず洗ひ清潔に致しませう西洋人は食事前必ず手を洗ふさうです良い風習は日本人も眞似なくてはなりません

平の郷土讀本

愈よ近く完成

既報平町各小學校では過般來改定郷土讀本の編纂を目論み之れが調査と募集方法に對して種々熟考をかさね具体的計劃のプランを立て第一坂内、力丸、第二金澤荒、第三新家、蛭田の各訓導が委員となり分担して材料募集に奔走中の處此の程やうやく纏まつたので近く最後の委員會を開き印刷に附する事になつたが此の郷土讀本の内容は郷土教育と町に對する關係その他農産金融、交通、神社、佛閣等一隅をも洩らす事なく廣汎に亘つて記述してあるので之れが完成の時は町民に寄與するところおほいであらうと大の期待をかけられてゐる

義捐金

平町で募集

朝鮮水害へ 平町役場では去る六月下旬前後三回の暴風雨で大被害を蒙つた朝鮮全羅南道及び慶尚南道の罹災民救済の爲近く全區長各種團體と協力して義捐金の募集を行ふ事になつた

産米ジリ高

農家は漸次手持ち薄

石城販賣利用組合の大浦農業倉庫では昨十五日在庫米五等二十二俵、等外三十四俵、計五十六俵を入札せる結果四等建値一俵八圓四十四銭を以つて全部大野村の瀬谷秀藏氏に落札されたがソロ／＼百姓連の持米が減つた爲め前回に比して二十銭の高値を見た

記念演習

山肩少佐参加

鹿島郷軍で 石城郡鹿島村在郷軍人分會では来る十月八日の満州事變

平法曹團

雪辱戦 省に惜敗

平法曹團 過般營林の雪辱戦 省に惜敗した平法曹團野球部では縣下野球大會も間近く迫つたので本日午後二時より第一校庭で雪辱を兼ね練習試合を行つた

記念行事

磐女の旗行列

満州事變の 磐女では来る十八日の満州事變勃發二週年記念日に際し校長講話、縣社及び忠魂碑の參拜をなし後旗行列を行ひ町内を練り歩く

銀行總會

來月平で開く

縣 石城郡銀行組合では来る十月二十五日頃平町で縣下の銀行同盟總會が開催される事になつたので本日之が準備協議會を開いた

満鮮視察員

佐藤氏に決定

兒童競技會の豫選を行つた 石城郡教育會では来る二十日より十月十日迄本縣教育會で行はれる満鮮視察員として内郷尋高校長佐藤一氏を選定した

眞綿製造講習

石城郡窪村農會では来る廿八日から七日間同村小學校

平第一校豫選 平第一校で本日午後一時より來十月一日開催される第三區

曾我氏慰勞會

けふマルトモで

飯野青年が 平町小學校保護者では本日午後六時よりマルトモホールに於いて過般退職された曾我直治氏の慰勞會を催すと

飯野青年が

自轉車行脚

自轉車行脚 石城郡飯野村青年團員は來月上旬頃自轉車隊を組織して縣下優良青年團の状況視察を行ふべく計畫中である

巖谷先生!

川崎小島

巖谷先生! 稀なる多能の人 先生の様は多方面に亘つて各種各様の才能を持たれた人は本邦にも稀れであると思ふ、小説も書けば劇も作る、俳句、川柳も著名であり、詩や歌も得意、書既に定評あり、書も又好評然も夫々の途に於いて傑出され、他の追隨を許さぬ独自の境地に一流の名を爲して居る。

の改良に傾倒された功績を忘れてはならない。

◇先生の假名使ひの所論に依れば、我國の假名使ひは餘りに多岐多様に亘つて復雜を極め實に面倒過ぎる例へばはとわの使ひ分けにしても「是れは」は「是れわ」でよいではないか「おとうさん」でも「をとうさん」でも意味は同じである「さうかネ」と「そうかネ」「斯ふして」「斯うして」と書いても譯は解る、殊に吾々平町の人間等が發音で區別に困る「い、ひ、や」「へえ、え」等もどれか一字に一定すれば樂になる、ずとぶとの發音にどれ丈の相違があるか、是等の假名使ひが一々違ふ處に非常な惱みが生ずる、故に是れ等を整理する必要があると文法上や言語學に立脚して多年力説された。

◇故に先生の著書は全部先生獨自の假名使ひに依つて書かれてある、一時文部省も先生の意見に共鳴して教科書を全部改訂される迄に至つた處、交送して新たに小松原文相の時代となり、先生の教科書原稿なるものは惜しくも其儘葬られて終つた。

◇先生の所論の如く改良されて居れば、我々東北人の如く發音に難澁を極めて居る者等は、手紙を書くにも、文を作るにもどんなに簡易かつ氣樂さを感じて居たか知れない、此點から考へても先生の死は惜しむべきである。

いよくあす争覇戦

待望の濱三郡野球大会

昨報濱三郡第三回軟式野球大会は明日午前より磐中、平商、第一の三球場で石坂熊、國井、佐藤審判の下に行はれるが今大会の優勝チームは来る七月一日郡山市で開かれる縣下大会に若松福島各代表と覇を争ひ後仙臺の東北大会を経て明治神宮へ出場する資格を得るもので各出場チームのメンバーは左の如くである

- (平イグル)町田 岩瀬 (全浪江)百足 堀内 (四倉)武藤 杉浦 (平三丁目)馬目 根本 (磐炭運輸)渡邊 清野(綴採炭) 涌井武 涌井直(全新山) 坂本 新妻(隅田川)只野 田邊(湯本)鈴木 比佐 (富岡)小島 志賀(勿來) 鈴木 金成(平遞友)櫻田 木村

平商、古河柔道戦

あす接戦を豫想さる

平商對古河炭礦の柔道試合は明日午後一時より古河道場に於いて舉行されるが組合せは左の如く古河は昨年惜敗したぐけに今年は雪辱の意氣物凄く猛練習を續けて進境見るべきものあり大接戦を豫想され人氣を集めてゐる

- | | |
|--------|--------|
| 平商 | 古河 |
| 酒井 山野邊 | 佐藤 鈴木 |
| | 高木吉 平野 |
| | 高木益 金成 |
| | 小室 小幡 |
| | 會川 櫻井 |
| | 千葉忠 諏訪 |
| | 西川 栗原 |
| | 木村 大森 |
| | 金成 伊藤 |
| | 千葉正 小林 |
| | 志賀 高荒 |

名譽の八家へ 陸軍から表彰

十九日役場で傳達式

既報一家より多數の兵役服務者を出し過般陸軍省より表彰された平町居住遺族のうち今回左記八氏に對して陸軍省より表彰状を送付さ

れたので町役場では来る十九日午前十時より會議室に於いて榮ある傳達式を行ふ事になつたが授與される者左の如くである

工場鑛山の 労働統計調査

下準備に多忙

既報來月十日全國的に行はれる工場鑛山労働統計調査に磐城炭礦では小島務務課長外六十六名の調査員を置き入山炭礦も小山田人事係

本ものたど欺さ 人絹を賣付く

悪い香具師檢舉

昨十五日午後八時頃平郵便局前道路で絹織反物の投賣して居る男を密行中の平署員がインチキ人絹と見破り引致取調たが同人は東京市深川區古石町香具師北村龜吉(三)で本月初め平地方の祭典を當て込んで二圓位の安人絹を六圓位に吹つけかけて約七十餘圓を賣上げ不當の利を占めて居たもので一般の被害者で心當の方は平署刑事室に照會され、ば現品引替ひに金は返してやるとの事である

明日のラジオ
十七日

今晚は北東の風 晴曇半し明日は南東の風雲

今晚の部

- 後六、〇〇(子供の時間) お話とピアノ「子供とおつたん」 山田耕作
- 後六、二五(ことばの講座) 「子供に無理な假名づかひ」 城戸萬太郎
- 後七、三〇 講演「メキシコ國の獨立と發展並に日本との親善」メキシコ公使ドクトラミゲール ロンソメ

明日の部

- 前九、一〇 祭養料理献立 夕食「豚肉ガンモドキ馬鈴薯の吉野煮」 祭養研究所

怪しげな行者へ 平署の一大鐵槌

ひさせた留守中豫て情を通じて居た女中大月ユキ(三)と家財道具一切を賣拂つて行衛を晦したので妻のイワは本日平署に兩名の捜査願ひを出した

脱衣場荒し 條三郎收容

石城郡内郷村大字綴字堀坂六木賃宿吾妻己之吉方伊藤條三郎(三)が去る一日湯本町宇三國安積正信方の留子宅へ忍入り銘仙反物一反現金十圓六十錢を窃取した外好間古河炭礦共同浴場脱衣場で衣客の金腕時計一ヶ價格二十五圓を窃取した窃盗事件の公判は本日午前十一時より平區裁判所に於いて香西判事係り清田檢事立會

職工の奇禍 一ヶ月の重傷

石城郡湯本町宇菜田矢吹製材所職工竹藤之治郎(五)は昨十五日午前六時頃高さ二十尺の高所で材木運搬作業中誤つて材木諸共墜落し腰部其他に全治一ヶ月を要する傷を負つた

女中と駈落 平署へ捜査願

千葉縣銚子町本銚子六〇料理業者鈴木寛(三)は去る十三日妻イワ(三)を賞家に使

郡聯青年の 選手審査

あす磐女で

石城聯合青年團では過般の郡下青年團体育大會の成績により来る十月一日若松市で開催される縣下青年体育大會の出場選手を決定したが未決定の走巾飛、砲丸投、端米千米繼走の各出場選手は明日午前九時より磐女で團長立會の下に詮衡會を開き決定するが詮衡委員は左

平署の一大鐵槌

ひさせた留守中豫て情を通じて居た女中大月ユキ(三)と家財道具一切を賣拂つて行衛を晦したので妻のイワは本日平署に兩名の捜査願ひを出した

遺失物横領 喜幸は罰金

大沼郡尾崎村生れ目下住居不定遊藝人小林次事喜幸(三)は去る十二日午後六時頃植田町宇金町地内道路で同町赤津馬吉が遺失し現金五十圓八十錢在中の墓口一ヶを拾得横領し遺失物横領罪として罰金三十圓に本日平區裁判所に於いて略式命令を以つて處分された



【禁斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第四十二回 血に飢ゆる村正

とう／＼村正拜領
正『浦生浪人一ノ宮監物當
地へ罷り越し、武藝者と試
合を致したき由しを申込れ
た處一流の指南をいたす者
大勢ありながら何れも病氣
ぢやと申して試合を致す者
がない察するに監物を恐れ
たと見える、依つて其方も
病氣になりは致さんかと思
つてたづねたのだ』

都『是は怪しからん、拙者
めは今日監物と試合を致し
度く罷り出でました』

正『ウム、其方は日本浪人
と試合をしたと思ふて出
仕いたしたのか』

都『左様にございます』

正『夫で予も安堵いたした
負けるな』

都『負けやうと思つて試合
を致す譯は参りません』

正『其方が日本浪人一ノ宮
監物を打負かしたる節は褒
美として予が秘藏の籠釣瓶
を遣はす』

都『ハ、ッ扱ては御秘藏の
籠釣瓶を下し置かれます
か』

正『如何にも遣はす』
武左衛門喜んで堅く御約
束を申し御前にて一ノ宮監
物と三本勝負をいたしまし
た都築武左衛門は鞍馬八流

の名人でございます、され
ば三本とも武左衛門の勝を
見ましたのは實に福島家の
名譽とも相成りました、日
本浪人は這々の体で藝州を



に具足を遣はす事ゆえ左様
心得ろ』
都『私しは具足の蓄へはご
ざいますゆえ拜領を仕りま
しても鎧重ね着は出来ませ
ん』
都『夫故具足に望みはござ
いませぬ籠釣瓶村正を拜領
いたし度く存じます』
正『然らば金子を望み次第
取らせるであらう、夫て村
正に勝る銘刀を買入れたら
宜しからう』
都『天國の寶劍にても之を
喜びとせず、拙者の望む所

の村正ゆえ籠釣瓶だけは斷
念いたせ』
都『左様なら何も拜領致し
ませんでも宜しうございま
す其の代り家中の者は勿論
出入いたす町人にまで當國
の主人福島左衛門大夫正則
公は言葉を左右に寄せ武士
にあるまじき御方なり、一
且遣はすと仰しやつた物を
其場に至つて御變換なさる
様な頼母しからぬ殿でござ
ると一同の者に申しまする
がお宜しうございますか』
正『黙れ左様な事を申され
て堪るものか』
都『然らば下し置かれる
か』

だ』
甲『殿様御秘藏の籠釣瓶も
終々都築先生の物になりま
したな』
と羨しげに申しました、
つて武左衛門は拜領をいた
した籠釣瓶は大切に致して
居りました所不幸にも元和
元年福島家断絶をいたし藝
備兩洲は徳川家御引渡しに
成相り、正則公には信洲川
中島へ御流罪に相成り福島
の家來は離々散るに相成り
ました時に都築武左衛門縁
あつて大和郡山に於いて十
八萬石本多大内記殿へ御召
抱へに相成り、知行は三百
石でも代々鞍馬八流を御指
南いたして参りました、然
るに都築武左衛門より四代
の孫都築武助高茂と申して
相變らず御指南をいたして
居りました、然る處都築武
助と云ふ人は鞍馬八流は祖
父にも勝り實に名譽の腕前
でございます此人幼少の
時に一眼をつぶし殊に疝の
故も、ございませうが左の
足が少し釣れますので一寸
見た所では武藝者とは見え
ません。

退散をする、扱て御約束ゆ
え籠釣瓶を頂戴いたし度い
と願ひ出でました時に正則
もハット思召し
正『武左衛門籠釣瓶の代り

は籠釣瓶にございます是非
御約束ゆえ拜領仰付けられ
たし』
正『ウム然ういはずに他の
品は何んでも遣はすが秘藏

と仰しやつた、御側に居
た若侍、互に目と目顔と顔
を見ながら
甲『やられましたな』
乙『都築先生は中々才物

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

看護婦急派
の求めに應
じます

秋の流行は三井ら
本場 銘仙の各種
斯界の新柄
三三年型シヨール
毛斯リン着尺の粹
三井呉服店
平三井呉服店
電話三八四

中村齒科醫院
平町鍛冶町七

小兒科 内科
特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。
平町 ねずみ坂
渡邊醫院
電話一六一番

開店披露
今般平町田町「松月堂向」へ藥種商を開業致しました
各種藥品は勿論精々良品を選び親切を旨とし凡てに
於て大勉強致しますから何卒多少に不拘御用命下さ
る様御願ひ致します。
藥種賣買、工業藥品
衛生材料、各種染料
化粧品、其他
阿部藥舖
平・田町(松月堂向)

吉田眼科病院
平町南町、電話六八番